

2021年3月12日

報道関係各位

ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社
東京都港区港南 1-2-70

「女性の健康についての総合的な教育」を受けたことがないと感じている女性は3割 婦人科系疾患の不安・疑いをもった女性の9割は男性にも教育が必要と考える

臨床検査薬・機器を扱うヘルスケアカンパニーのロシュ・ダイアグノスティックス株式会社（本社：東京都港区/代表取締役社長兼CEO：小笠原信）は、15歳～69歳の女性5000名を対象に女性の健康に関する調査を実施いたしました。

- 月経、妊娠・出産や閉経、女性特有の疾患などの「女性の健康についての総合的な教育」について、3人に1人はこれまでに受けていないと回答。
- 男性が「女性の健康についての総合的な教育」を受けることに対しては、回答者全体の約8割、婦人科系疾患の不安・疑いをもったことのある女性では約9割が「ぜひ受けて欲しい」「受けた方がよい」と肯定的。
- 男性が教育を受けるのに適切な時期としては、半数の人が小学校高学年～高校生を挙げた一方で、入社後しばらくして子どものことを考え始める頃とした人が約2割。

重症化リスクの高い婦人科系疾患を早期に発見し、適切な治療を行うためには、婦人科での定期的な受診が大切ですが、何となく行きにくい、恥ずかしいと感じる人が少なくありません。身体に起こる変化や健康リスクは年代によって異なり、家族や友人に相談しにくい話題を相談できる婦人科の「かかりつけ医」をもっておくと安心です。

ロシュ・ダイアグノスティックスは、もっと気軽に受診できるように婦人科のイメージを変えるべく、定期的に女性の健康に関する意識調査の実施や啓発イベントの協賛などを行っています（詳細は別項に記載いたします）。今回のオンライン調査では、[婦人科かかりつけ医についての調査](#)に加えて、「女性の健康についての総合的な教育」について尋ねました。その結果、ライフステージによって異なる女性の健康の悩みに対する総合的な教育が十分ではなく、また男性にも理解を求めている実態が明らかになりました。

ロシュ・ダイアグノスティックスは、臨床検査を通じて人々の健やかな生活、より豊かな人生に貢献することを目指し、検査の重要性を含めた健康に関する情報発信を今後も行ってまいります。

調査概要

調査名：女性のかかりつけ医に関する調査

調査期間：2020年12月18日～12月21日

調査方法：インターネット調査

調査対象：15歳(高校生以上)～69歳の女性5000人

実施機関：株式会社クロスマーケティング

調査結果詳細

- 「女性の健康についての総合的な教育（月経、妊娠・出産や閉経、女性特有の疾患など）」を受けた時期は小学校高学年が最も多い一方で、3人に1人は特にそうした教育を受けていないと回答。年代による大きな差異はみられなかった。
- 男性が「女性の健康についての総合的な教育」を受けることに対しては、回答者全体の76%、これまでに婦人科系疾患の不安・疑いをもった女性では88%が「ぜひ受けて欲しい」「受けた方がよい」と肯定的であった。
- 特に性感染症や不妊症、月経困難症の不安・疑いをもった女性の半数は、男性にも教育を「ぜひ受けて欲しい」と強く希望していた。婦人科系疾患の悩みをもったことのない女性は「どちらでもよい」の回答が相対的に多かった。
- 男性が教育を受けるのに適切な時期としては、女性自身がそうした教育を受けた小学校高学年～高校生を挙げた人が約半数、社会人になってしばらくして子どものことを考え始める頃とした人が約2割いた。

図 1: 「女性の健康についての総合的な教育（月経、妊娠・出産や閉経、女性特有の疾患など）」を受けた時期（複数回答）

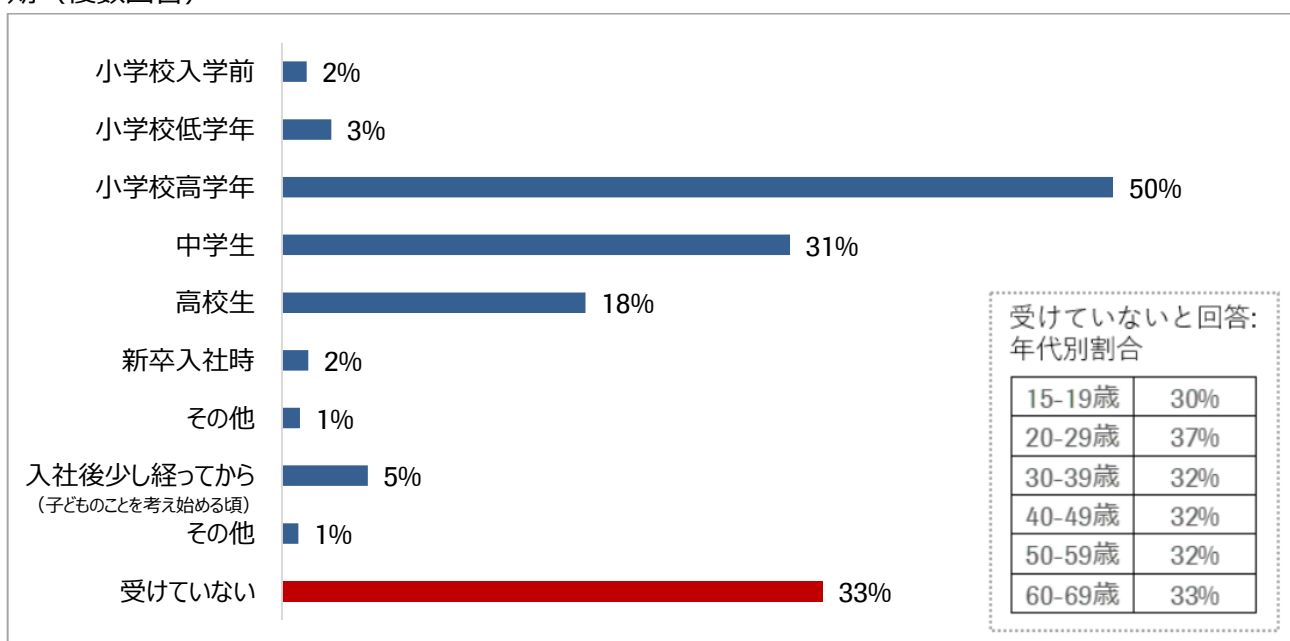


図 2: 男性が「女性の健康についての総合的な教育」を受けることに対する回答者の意識

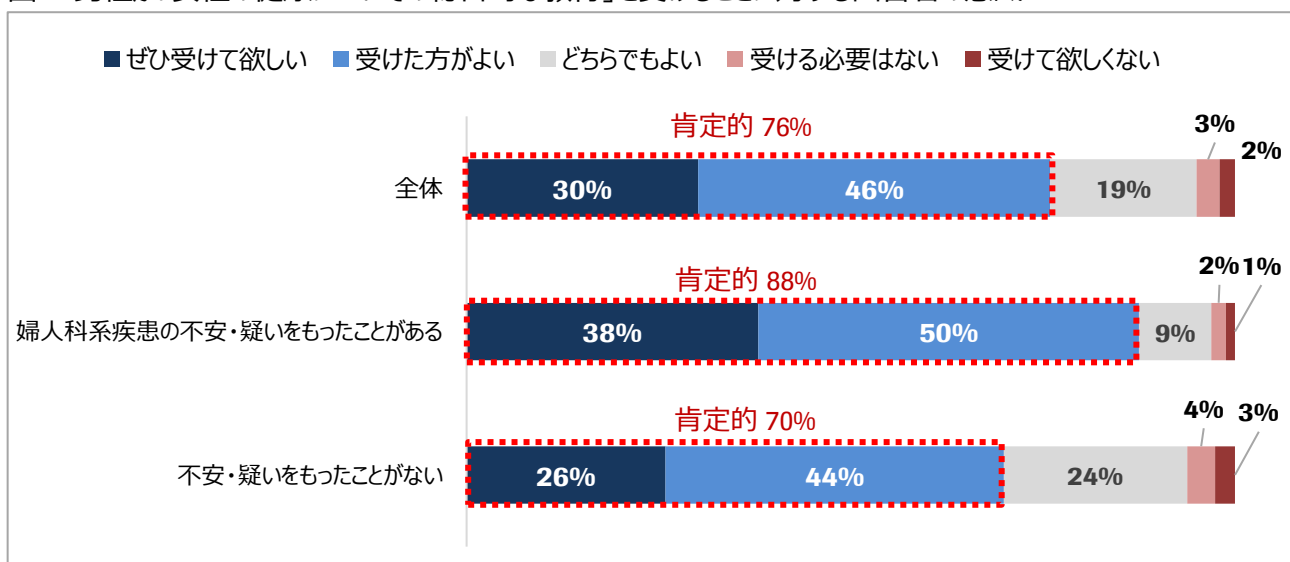
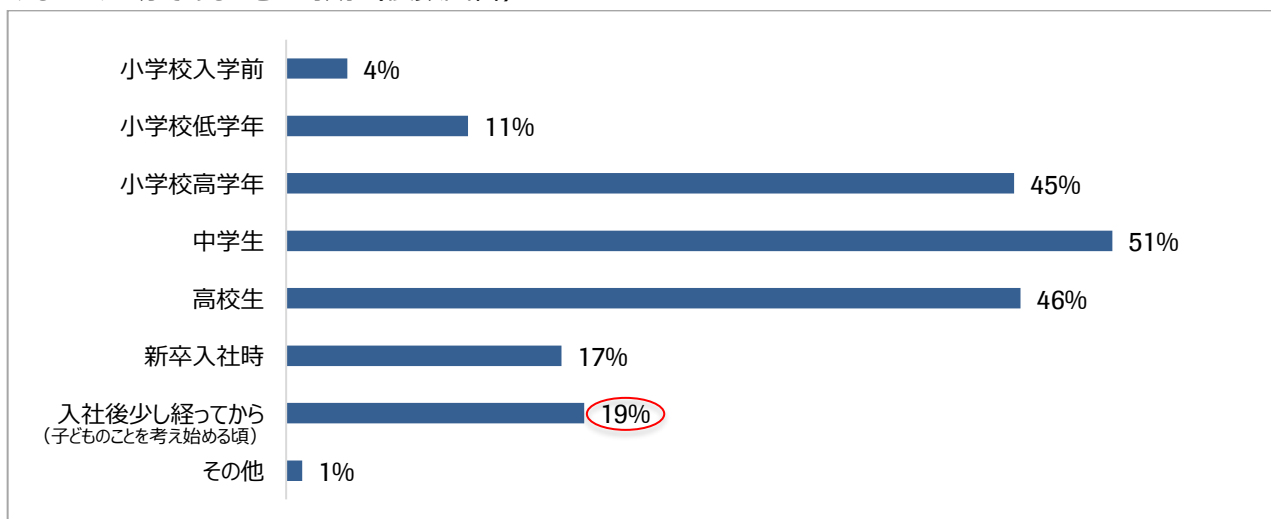


図 3: 男性が「女性の健康についての総合的な教育」を受けることに対して、回答者がこれまでに不安・疑いをもったことのある疾患別の回答傾向

これまでに不安・疑いをもったことのある疾患	男性が女性の健康についての総合的な教育を受けることについて				
	ぜひ受けて欲しい	受けた方がよい	どちらでもよい	受ける必要はない	受けて欲しくない
月経困難症	46%	44%	7%	2%	1%
不妊症	46%	44%	8%	1%	1%
更年期障害	34%	51%	13%	1%	1%
骨粗しょう症	37%	52%	10%	1%	1%
STI（性感染症）	53%	39%	3%	5%	0%
子宮頸がん	43%	48%	9%	0%	0%
子宮体がん	43%	48%	9%	1%	0%
卵巣がん	45%	47%	6%	2%	0%
乳がん	38%	50%	10%	2%	1%
その他婦人科系疾患	43%	48%	9%	1%	0%
ひとつもない	26%	44%	24%	4%	3%

図 4: 男性が「女性の健康についての総合的な教育（月経、妊娠・出産や閉経、女性特有の疾患など）」を受けるのに適切であると思う時期（複数回答）



参考情報

ロシュ・ダイアグノスティックスの女性のための「かかりつけ医」に関する取り組み

- 女性のための「かかりつけ医」のススメ (ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社)

https://www.roche-diagnostics.jp/ja/general/women_health.html

産婦人科や女性特有の病気についてまとめた冊子 (PDF) をダウンロードできます。(無料)

- オンラインイベント『わたしたちのヘルシー ～心とからだの話をはじめよう～』への協賛

女性の健康週間 (3月1日～8日) と国際女性デー (3月8日) にあわせて開催された CINRA と Women's Health Action がプロデュースする [オンラインイベント](#) にて、ロシュ・ダイアグノスティックスは、女性が「かかりつけ医」をもつことの大切さをテーマにしたトークイベントを実施しました。

https://www.youtube.com/watch?v=XcXjrWg_dxQ (2021年3月31日まで動画無料公開中)

(女性のかかりつけ医のススメ: 動画内時間 1:12:45～1:45:09)

ロシュ・ダイアグノスティクス株式会社について

創立 125 周年を迎えるロシュグループは、ヘルスケア業界で革新を起こし続ける、世界有数のバイオテックカンパニーです。医薬品と診断薬を併せ持ち、健康・予防・診断・治療・予後のすべてのステージにおいて、医療従事者の皆さまと患者さんが最適な治療選択や意思決定をできるよう支援しています。

ロシュ・ダイアグノスティクス株式会社はロシュ診断薬事業部門の日本法人です。日本における診断薬事業は 50 年の経験と実績があり、2021 年 1 月現在で従業員 728 人、全国 9 都市に支店を有し、体外診断用医薬品・医療機器事業、研究用試薬・機器事業などを幅広い領域で展開しています。診断の革新によりヘルスケアの未来を形づくり、人々がより健やかに、自分らしい人生を送れるようサポートすることを目指しています。

詳細は、<http://www.roche-diagnostics.jp>をご覧ください。

本件のお問合わせ先

コミュニケーション部門

email: tokyo.pr@roche.com